

大医福 原因不明「食道アカラシア」 新たに内視鏡手術

福島医大付属病院は食道の筋肉がうまく動かなくなる原因不明の「食道アカラシア」の内視鏡手術を始めた。従来の治療法より病気が治る確率が高い上、回復も早く、術後一週間程度で退院できる。内視鏡診療部・消化器内科の中村純医師(せむ)が手術を担当している。高い技術が必要のため、東北地方で実施しているのは福島医大付属病院と東北大病院(仙台市)の二カ所のみ。

東北で2カ所



中村純医師

食道アカラシアにより食道の筋肉が締まったままになると、食べ物や胃に流れにくくなる。胸のつかえ感や胸痛のほか、口の中へ逆

流する例もあり、重症者は食事ができなくな



① 食道の筋肉を切るPOEMの図②POEMで食道の筋肉を切った後、粘膜部分をふさぐ作業の図(井上教授提供)

る場合もあるという。これまででは食道の筋肉を外側から治療する大掛かりな外科手術や、風船で筋肉を広げる「バルーン拡張術」などが一般的だった。新たな手術は「内視鏡的筋層切開術(POEM)」と呼ばれ、昭和

の井上晴洋教授が平成二十一年に開発した。食道粘膜の下部にある筋肉部分に内視鏡を挿入し、食道を円形に取り巻く筋肉の一部を切って締まる力を弱め、食べ物の流れやすくする。最後に内視鏡挿入部の粘膜をふさぐ。中村医師は二十七年

四月から二十八年三月まで井上教授に師事して技術を習得。保険適用となった今年四月から施術を始めた。これまでに十一人を治療し、いずれも経過は良好という。

中村医師は「手術数は想定を上回っている。長期間、手術をためらっている人もいた。悩んでいる人がいたら相談してほしい」と呼び掛けている。

問い合わせは福島医大付属病院内視鏡診療部 電話024(547)1583へ。